

## 【社会科教育法Ⅲ】 第6回課題の解答(第12講用)

### 問1

#### ○ 疑問の解決と資料の使い方…田中友紀乃

「亜熱帯の沖縄」と「酸性雨の背景」の授業は同じ地理の授業だが、教え方の点で様々な違いがみられる。

「亜熱帯の沖縄」は資料を使い疑問を発生させ、その疑問を生徒同士の討議で解決している。また、沖縄という地域だけに着目し、他の地域と比較し、「沖縄とはどういう場所なのか」ということ学習している。

一方、「酸性雨の背景」の授業では出てきた疑問を、生徒同士で話し合うことなく、答えを導き出している。疑問の答えも資料を見ると分かる場合が多い(資料にもとづいて仮説を検証したり修正したりしている…草原註)。また、1つの国にとどまらず、さまざまな国の視点から「なぜ酸性雨が起こるのか」ということを学習している。

以上のように「亜熱帯の沖縄」と「酸性雨の背景」の授業は、疑問の解決方法や、資料の使い方、特定の地域に視点を絞るかどうか、の点で違いがみられた。「亜熱帯の沖縄」は沖縄の特色は“何か”，「酸性雨の背景」では酸性雨は“なぜ”起こるのか、2つの授業が異なる理由は教えるポイントが異なるからではと感じた。(教えるポイントとは何か…草原註)

#### ○ 個別性の追求か、普遍性の追求か…横山遥

「沖縄の産業」と「酸性雨の背景」についてミクロな視点かマクロな視点であるかを相違点として考察した。

「沖縄の産業」であるが、沖縄県を考えていくにあたり沖縄の第1次～3次産業をみていった。その3つの視点から分析したのちにそれらを統合し、観光業が沖縄県は特化していることがわかる構成であり、沖縄県のみの特徴を理解するミクロな視点であった。

一方で「酸性雨の背景」では、ヨーロッパを事例にはしているが、補助として日本を取り上げ(資料7)たり、など世界に視野を広げている。さらに、背景を経済的・政治的・社会的に考察することで、ヨーロッパの問題だけではなく普遍的な問題であることを理解させ、現代社会について考えることができる。また、環境問題を考える初めの授業で酸性雨をとりあげ、その他の環境問題にもこの授業で得た知識が活用できるようになっている。

#### ○ 個性・特色 What の解明か、原因・条件 Why の解明か…花房瞳

「亜熱帯の沖縄」と「酸性雨の背景」を比較すると様々な相違点が見られる。

・**授業の展開の仕方**： 「亜熱帯の沖縄」では、沖縄に関する読み物資料(ひろし君の沖縄旅行記)から個人で疑問点をあげ、グループでその疑問をまとめて全体で発表、疑問の解決をするという子どもたちが主体となる進め方である。「酸性雨の背景」では、最初に基礎的知識を理解、そして地域からみた酸性雨と経済のつながりを資料から確認して酸性雨を経済的に考察する。さらに、経済的、政治的背景から酸性雨が降ったことを理論的に説明し、環境問題を空間的な関係から考える。また、この授業は教師主導で行われており、子どもたちは資料から情報を読み取るなど受け身になる傾向があった。

・**What 追求型と Why 追求型**： 「亜熱帯の沖縄」では特色が理解できる What 型である。

様々な視点から沖縄の特色、構造を関連付けて結論を引き出している。一方、「酸性雨の背景」では、なぜ酸性雨が降るのか？など原因・理由を探求する Why 型となっている。

・資料： 「亜熱帯の沖縄」の授業と「酸性雨の背景」の授業では資料中心に授業を展開していくことは共通であるが、使用する資料に相違点がある。まず、「亜熱帯の沖縄」の授業で用いられた資料は主観的な資料である『ひろし君の沖縄旅行記』と客観的な資料（統計データ）を用いて子どもたちが予想と比較を繰り返して考え事実を確定できるようになっていた。しかし、「酸性雨の背景」の資料は、統計資料を主に使用して子どもたちが環境問題を認識していく際に地理的技能を取得でき、また酸性雨の原因を資料を通じて理解できるようになっていた。

## ○ 教師の設定した単元目標や指導計画の違い→授業構成の違い…後藤 麻菜美

2つの授業を比較した結果からわかった相違点とその理由を述べていく。以下、大きく3つの相違点と理由に視点を置く。

1つ目は、「亜熱帯の沖縄」は what 型で特色がわかる授業になっているが、「酸性雨の背景」は why 型でなぜという疑問（原因がわかる…草原註）を探究する授業になっている点である。この理由としては、単元目標や単元がそれぞれに違うこと、子どもたちに教える質の追求の仕方などが先生により異なっているからであると考えられる。

2つ目は、「亜熱帯の沖縄」は地域解説型で沖縄の産業の特色のみに限定して授業を進めているが、「酸性雨の背景」は一般的社会の見方に関連し概念的知識を子どもたちに教えながら授業を進めている。この理由としては、先生が設定した単元目標や単元が指導計画ごとに異なるからであると考えられる。また先生が生徒に教える際に重視している事柄が違うからである。

3つ目は、2つの授業は同じ地理的事象を取り扱っていて資料のデータや作業、加工、計算なども取り入れていて授業形態は似ているように見えるが、授業の質が全く違うことである。より質の高さを重視しているのは「酸性雨の背景」である。なぜなら、「亜熱帯の沖縄」は時間が足りなくなり事象の意味・解釈型の授業になってしまったが、「酸性雨の背景」は経済・政治・空間的理由にまで触れており事実的知識＋概念的知識を授業で扱っている為である。展開部分では、人間や社会についても触れており環境問題という大きな枠組みを他地域との結びつきから考えている。最終的には、酸性雨をくい止めるには複数の国の協力が必要であると子どもたちに気づかせており、質をとことん追求した授業構成であると考えられる。

## 問 2

### ○ 複数の原因を考えさせる…勝田 瑠理

導入部分で、授業のテーマが環境問題の1つである「酸性雨」だということを生徒に知らせる。展開1では、日本国内ではあまり問題視されていないために、生徒が聞いたことしかないであろう酸性雨の概要・影響・要因について資料を用いながら教える。

展開2以降は、酸性雨の背景について考えるのだが、生徒はプリントの資料から工場が原因ではないかと予想をたてる。だから、工業が発達し、エネルギー消費量が多い地域に酸性雨が多く降るのだろうと考える。

しかし、実際にエネルギー消費量と降水酸性度の関係を図にまとめると、酸性雨の要因がそれ以外にもあることに気づく。展開3では、生徒は図から、東欧諸国は安い自国の石炭に依存していること、企業や政府が酸性雨に無関心なことが要因だとわかる。さらに、北欧諸国はエネルギー消費量の多い国の影響で酸性雨が多くみられていることがわかる。これらのことから、生徒は酸性雨への取り組みは企業や政府だけではなく、複数の国で協力することが求められていることを授業の中で理解する。

### ○ 例外を突き付け、例外の原因を分析させる…安永早紀

授業の導入部分で酸性雨の基礎的な知識として、酸性雨の定義やメカニズムを示し、それがもたらす被害を、森林が枯れた写真によって説明する。以後、授業は「なぜ酸性雨が起こるのか？」というMQの答えに沿って展開される。まず、酸性雨が降る地域の特徴を確認する。ここから、利潤追求を動機とする企業の経済活動によるエネルギー消費と酸性雨の関係性が見えてくる。エネルギー消費が多いほど酸性雨も多いという予想を立て、エネルギー消費量と酸性雨の相関関係図を生徒に作成させ検証した。

そこから、エネルギー消費と酸性雨が密接に結びつくことが分かったが、エネルギー消費以外にも酸性雨を発生させる有害成分が石炭の中に含まれていることが判明した。石炭による被害は東欧諸国で多くみられ、政府が石炭による酸性雨被害を市民に公開しなかったために酸性雨対策の世論が強まらず、政府は対策を怠り問題は深刻化した。酸性雨の問題にたいして政府の役割が重要であることがわかる。ここで、企業の経済活動と政府の役割が酸性雨発生の背景として結論付けた。

しかし、この結論には例外があることを、北欧諸国を例に挙げて示す。3か国の共通点を見つけ、エネルギー消費以外の酸性雨の背景を考えさせる。そこから、偏西風によって汚染物質が運ばれていることが明らかになる。汚染源から遠く離れた地域まで被害が及ぶ酸性雨は一定の地域だけの問題ではなく地球規模の環境問題であり、酸性雨発生のもう1つの背景として空間的なことがあると結論付けた。

教師は、「なぜ酸性雨が起こるのか？」というMQに対して1つだけの結論を出すのではなく、導き出した結論に例外がないか検証させ、例外を例外としてそのままにしておくのではなく例外に対する結論も導き出していた。また、環境問題が地理的な要素だけではなく政府・経済活動という公民の分野も関連があることを示した。また、環境問題が地理的な要素だけではなく政府・経済活動という公民の分野も関連することを示した。

## 【社会科教育法Ⅲ】

### 第6回課題（グループ単位）：指導案を作って提案しよう

#### 第14講 … 担当（ ， ， ）

##### ◎ 地理的分野「アジア」

- ① 草原のHPに掲載されている学習材「アジア」を参考に、1時間分の指導案を作成する。Googleで検索 → 草原研究室 学習材ライブラリー  
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~kusahara/kusalab/class/2013/text/text.html>
- ② 指導案の形式は「律令国家・唐」や「酸性雨の背景」を参考にせよ。
- ③ 提出期限は7月10日（木）朝9時。草原のメールアドレスまで。

##### ◎ 指導案の条件

- ① MQを「なぜ？」か「なに？」でつくること。
- ② 扱うテーマは、「朝鮮半島」「中国」「東南アジア」「南アジア」「西アジア」「中央アジア」のいずれかにすること。
- ③ 地域の事象・出来事を事例にして、一般的な理論・概念を探求させることを目的とすること。
- ④ 指導案だけでなく、実際に使いたい教材・図表、ワークシート or 板書計画も準備すること。

#### 第15講 … 担当（ ， ， ）

##### ◎ 歴史的分野「時代の概観」

- ① 草原のHPに掲載されている学習材「時代の概観」を参考に、1時間分の指導案を作成する。Googleで検索 → 草原研究室 学習材ライブラリー  
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~kusahara/kusalab/class/2013/text/text.html>
- ② 指導案の形式は「律令国家・唐」や「酸性雨の背景」を参考にせよ。
- ③ 提出期限は7月17日（木）朝9時。草原のメールアドレスまで。

##### ◎ 指導案の条件

- ① MQを「なぜ？」か「なに？」でつくること。
- ② 扱うテーマは、「古代」「中世」「近世」「近代」「現代の日本」「現代の世界」のいずれかにすること。
- ③ 各時代の事象・出来事を細かく理解させるのではなく、各時代ならではの構造や特色を大きく捉えさせることを目的とすること。
- ④ 指導案だけでなく、実際に使いたい教材・図表、ワークシート or 板書計画も準備すること。

※ 当日は、各担当者が草原に提出した指導案（草原が印刷してきます）を示しながら、授業の展開を説明してもらいます。そのあと受講者の質問に答えつつ不十分な箇所を見だし、改善案を考えていきます。